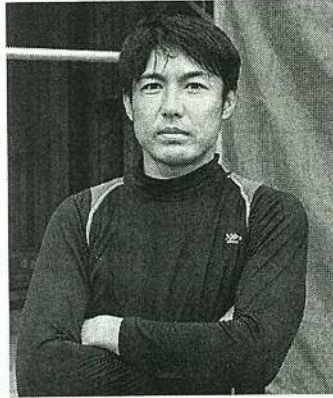


# ひと

## 2×4工法一筋、20年

優秀フレーマー賞に輝いた  
ポラスハウジング協同組合の  
佐藤 学 さん



持つ。

山形県立米沢工業高校を卒業し、ポラスの職業訓練校に入社（正社員待遇）。

3月からポラスハウジング協同組合施工推進課2×4係に所属し、主任として現場に立つ。高校卒業時、地元工務店の現場監督を希望していたが、「県外にしか就職先がなかった。そこで、気になったのがポラス」という。2×4に携わって20年。「辞

日本ツーバイフォー建築協会の18年度優秀フレーマー賞に輝いた。ポラスグループは木造軸組みと2×4工法を手掛けているが、優秀フレーマーを輩出したのは佐藤氏が初めて。「賞を取ったときは当然だろうと思った」と実績に誇りを

めようと考えたことはある。でも、自分が辞めると後輩もやっつけていけない。魅力ある仲間がたくさんいると周囲を思いやる。「フレミングから造作まで通してやると、同じ現場に約40～50日間いることになり、後の造作を考えて先に「ポラスアルファ」の仕事をしておく」と全体の流れに配慮。後輩にも後先を考

えるようにと助言する。毎年、500棟以上のフレミングに従事。無事故、無違反、無労災で働いてきた。「これくらいならいいや」という気持ちだが怪

我（けが）につながる。そういうことは基本的にやらない」と意識は高い。受賞を踏まえ、「軸組みと比べ、2×4関係のチャンスは少ない。取れる賞は全部取りたい」と意欲的だ。

大工の魅力を「考えた工程通りに進んだときはやはり気持ちがいい」と説く。実は父親も大工で「地元に戻った時に手伝ったことがあるが、（仕事のやり方が）合わなかった。お互いにプライドがある」と笑う。自身も2人の子供の父親。「優秀フレーマー賞をもらったときに娘に言われた一言『日本一の大工さん、おめでとう』がうれしかった。一番、胸に來たと笑顔を浮かべた。山形県出身、38歳。（古賀和之

）